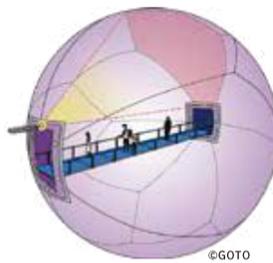


「環境創造シアター」は、直径12.8m（実際の地球の100万分の1の大きさ）の球体の内側すべてがスクリーンになっていて、360° 全方位の映像を体験できるシアターです。

2005年「愛・地球博」の長久手日本館で人気を博した「地球の部屋」が「シアター360°」として国立科学博物館に移設されました。「環境創造シアター」は「シアター360°」と同じサイズの全球型シアターで、福島県環境創造センター交流棟「コミュタン福島」に設置されました。



映像と音に包まれる全球型シアターを体験しよう！！

2021年国立科学博物館オリジナル番組上映スケジュール

※国立科学博物館オリジナル番組は月替りで上映します。

1月 January	2月 February	3月 March
・海の食物連鎖 ・深海	・恐竜の世界 ・マントルと地球の変動	・宇宙138億年の旅 ・人類の旅
4月 April	5月 May	6月 June
・マントルと地球の変動 ・海の食物連鎖	・恐竜の世界 ・深海	・マントルと地球の変動 ・宇宙138億年の旅
7月 July	8月 August	9月 September
E・人類の旅 F・深海	・恐竜の世界 ・海の食物連鎖	・宇宙138億年の旅 ・深海
10月 October	11月 November	12月 December
・マントルと地球の変動 ・人類の旅	・宇宙138億年の旅 ・海の食物連鎖	・恐竜の世界 ・人類の旅

1:00	1:30	2:00	2:30	3:00	3:30	4:00	4:30
A	A	A	A	A	A	A	A
B	A	B	A	B	A	B	C



環境創造シアター鑑賞時の注意



撮影・録音禁止



飲食禁止



携帯電話禁止



映像の特性上、浮遊感やスピード感があり、ご気分が悪くなるおそれがあります。特に『小さいお子様』『体調の優れない方』『妊娠中の方』『ご高齢の方』『心臓疾患をお持ちの方』などは十分ご注意ください。
また、飲酒されている方』『付き添いの者がいない未就学児童』のご入場はご遠慮願います。

コミュタン福島利用案内

- 開館時間 / 午前9時00分～午後5時00分
- 閉館日 / 毎週月曜日(ただし、月曜日が祝日の場合は翌平日) 年末年始(12月29日～1月3日)
- 入館料 / 無料(環境創造シアターの鑑賞も無料です。)

コミュタン福島へのアクセス

三春町町営バスでコミュタン福島に行こう！
環境創造センターをご利用の方はバス料金無料



車を御利用の場合

磐越自動車道船引三春ICより約5分

電車を御利用の場合

JR磐越東線三春駅より車で約12分
要田駅より徒歩で約40分

三春町町営バスを御利用の場合

三春駅～環境創造センター(コミュタン福島)
年末年始(12月31日～1月3日)を除き毎日(1日4便)運行

※運行時間等の詳細は、次のホームページをご覧ください
<http://www.com-fukushima.jp/information/access.html>

問い合わせ先

福島県環境創造センター交流棟 コミュタン福島

〒963-7700 福島県田村郡三春町字深作10番2号(田村西部工業団地内)
TEL.0247 (61) 5721 FAX.0247 (61) 5727

ホームページ <https://www.com-fukushima.jp/>

コミュタン福島 環境創造シアター 視聴ガイド



環境創造シアター



環境創造シアター
はどんなもの？



上映作品

コミュタン福島オリジナル番組

- ・『放射線の話』
- ・『福島ルネッサンス』
- ・『宇宙から見た地球環境』

国立科学博物館オリジナル番組

- ・『恐竜の世界 -化石から読み解く-』
- ・『マントルと地球の変動 -驚異の地球内部-』
- ・『宇宙138億年の旅 -すべては星から生まれた-』
- ・『海の食物連鎖 -太陽からクロマグロをつなぐエネルギーの流れ-』
- ・『人類の旅 -ホモ・サピエンス(新人)の拡散と創造の歩み-』
- ・『深海 -潜水艇が照らす漆黒のフロンティア-』

タイムスケジュール

- A** コミュタン福島オリジナル番組『放射線の話』+『福島ルネッサンス』(約15分)
- B** 国立科学博物館オリジナル番組(2番組上映:約10分)
- C** コミュタン福島オリジナル番組『宇宙から見た地球環境』(約6分)

	9:00	9:30	10:00	10:30	11:00	11:30	12:00
平日		A	A	A	A	A	休止
土日祝日 学校長期休暇中		A	B	A	B	A	休止

※上映開始時間は予告なく変更することがあります。

●放射線の話

◆身近な視点から放射線についてアプローチ

放射線は目に見えませんが、私たちの身の回りに確かに存在します。「放射線とは何か?」「体にどんな影響があるのか?」放射線について分かりやすく紹介します。

SCENE.2

『宇宙からの放射線』

放射線は目には見えませんが、宇宙にはたくさん飛び交っています。

『自然の中の放射線』

私たちは太古の昔から微量の放射線に固まれてきました。



SCENE.3

『放射線って何?』

放射線は小さな粒子が持つエネルギーと電磁波の2種類あります。放射線には、ものを通り抜ける性質があります。

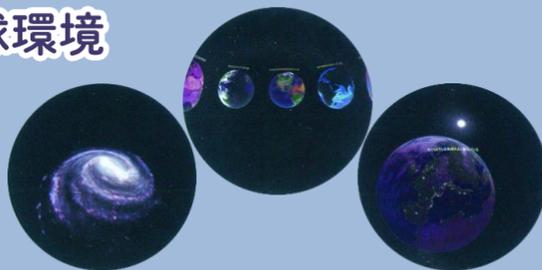
SCENE.4

『人工の放射線』

福島第一原子力発電所事故により放射性物質が発電所の外に放出されました。私たちの生活空間の放射線の量を少なくする除染が行われてきています。

●宇宙からみた地球環境

漆黒の宇宙に青く輝く、地球。太陽からのちょうど良い距離など、いくつかの偶然が重なって生命があふれる環境となりました。海洋、大気、気象などに関する様々なデータが、地球がどのような惑星であるのかを示してくれます。宇宙的な広い視野で地球の環境問題を考え、かけがえのない私たちの故郷について見ていきましょう。



ナレーター
白羽ゆり (しらはね ゆり)

福島県福島市出身。
1998年宝塚歌劇団入団。2005年「ベルサイユのばら」マリー・アントワネット役で星組主演娘役に就任。
2006年雪組主演娘役に就任し「エリザベト」ではエリザベト皇后役を務めた。2009年5月に宝塚歌劇団を退団。
退団後も舞台、TV、映画を中心に活躍。

福島ルネッサンス

◆『ふくしま』の美しい自然と豊かな文化を伝える

福島には四季折々の素晴らしい自然と長年受け継がれてきた伝統の祭りや文化があります。私たちは過去から引き継いだこの美しい自然や文化を守り伝えていかななくてはなりません。

SCENE.1

『Legacy (遺産)』

福島自然や文化の大きさ、美しさ、多様さを描き出し、受け継いできたものの豊かさと大切さを伝えます。



SCENE.2

『Renaissance (復興)』

福島第一原子力発電所事故からの「復興」へ向けた様々な取り組みや、悲劇に負けずに立ち上がった福島姿を描きます。また、除染活動や農業、漁業、祭りの様子、再生可能エネルギー等の映像を通して、福島今と未来を表現します。



SCENE.3

『エンディング』

大自然を俯瞰する映像や子供達の笑顔に取り囲まれる映像により、福島未来を明るくしていく希望の光を表現します。



ナレーター
西田敏行 (にしだ としゆき)

福島県郡山市出身。
中学卒業後、上京、明大中野高校から明治大学進学。その後中退し、1970年劇団青年座入団。
1970年「情痴」で初舞台。1971年舞台「写楽考」初主演。以降、舞台、テレビ、映画など出演多数。
2003年12月31日劇団青年座退団。

●深海 —潜水艇が照らす漆黒のフロンティア—

深海は真っ暗で低温、そして高い水圧がかかる過酷な環境です。深海底の大部分は一面泥に覆われ、生物も乏しい砂漠のような世界です。しかし深海にもオアシスのような生物の楽園が存在し、それが海底熱水活動域です。ここには熱水に含まれる硫化水素やメタンから有機物を合成する微生物に支えられた特異な生物社会が存在しています。



●恐竜の世界 —化石から読み解く—

恐竜化石はたいてい骨や歯だけで、映画のように生きた恐竜の世界を科学的に正確に再現するのは不可能です。しかし、骨や歯の形や関節の形から、彼らがどのように動き、暮らしていたか、その一端を想像することができます。トリケラトプスが息していた白亜紀最末期の北アメリカの世界を想像してみましょう。



●マントルと地球の変動 —驚異の地球内部—

プレートの運動によって大陸は分裂移動し、中央海嶺で生まれた海洋底は海溝から地球内部へ沈み込んでいます。そして地震や火山噴火をおこしながら、ときに大山脈も形成しています。これらの変動を解明するカギは、数億年かけてゆっくりと循環するマントルの動き。見ることでできない地球内部に入り込み、マントル深部からの上昇流と表面近くからの下降流による対流を追いかけます。



●宇宙138億年の旅 —すべては星から生まれた—

宇宙は138億年前のビッグバンによって始まりました。生まれた宇宙は、想像を絶する高温・高密度でした。宇宙はその後膨張を続け、水素ガスのかたまりから最初の星が誕生しました。さらに網の目の大規模構造の中で、無数の星や銀河が誕生しました。その中の一つが天の川銀河です。そこで太陽が生まれ、私たちの地球が誕生しました。人間の体も、もとは星の一部だったのです。



●海の世界 —太陽からクロマグロをつなぐエネルギーの流れ—

地球上にはじめて生命が誕生したのは、約40億年前。今では175万種をはるかに超える生物が存在しています。その内の多くは、太陽の光エネルギーを生かすための食物に変え「食う・食われる」を繰り返しながらリレーしていく『食物連鎖』というネットワークの中で暮らしています。ここでは、地球表面の70%を占める海で、太陽の光エネルギーがどのように生物から生物にリレーされていくのかを見ていきます。



●人類の旅 —ホモ・サピエンス(新人)の拡散と創造の歩み—

人類はアフリカで誕生し、猿人、原人、旧人、そして新人(ホモ・サピエンス)へと進化してきました。ここでは、化石やDNAなどの研究から、近年急激に解明が進んできた人類進化の道筋をたどります。そのクライマックスを飾るのは、次々と新しい文化や技術を生み出すことによって可能となった、わたしたちホモ・サピエンスの世界中への大拡散です。

